

シニアを 楽しむ

趣味と
仲間と
この街で

孤独死減少に挑戦 一人暮らしあんしん電話

松戸・常盤平の試み

「もしもし『あんしん電話』です……」受話器から聞こえる、いつもの医師の声。「一人暮らしあんしん電話」は、申し込んだ加入者に、体調を尋ねる電話を掛けてくれるサービスだ。

松戸市内の団地・自治会が参加し、現在、加入者は約400名。今年3月に松戸市からの助成も決まった。

平成26年、松戸市での孤独死は、統計開始以来過去最多の179人を数えた。高齢化に伴い、独居老人の孤独死は全国的に増加の一途をたどる。県の「孤独死防止制度」をはじめ、民生委員らの訪問や電話による安否確認は実施されてきたが、人数の限界や、応対の煩雑さなど課題も多い。

一方、『あんしん電話』の場合、加入者は、電話の音声に従って電話機のボタンを押

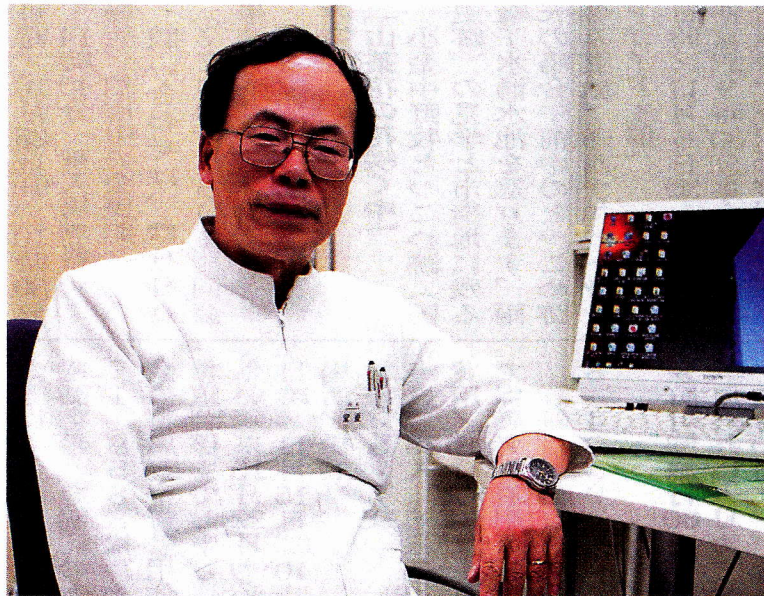
すことで、体調を回答できる。「*」のあと、元気なら「1」、体調不良なら「2」、連絡が必要なら「3」を押す。応答結果は管理者がパソコンで一覧する。「2」「3」の応答

をした加入者には、別途、自治会や民生委員、医院の事務員らが連絡する。電話の曜日・時間は希望制で、携帯電話の番号も登録可。加入者の費用負担は、ゼロ。提供側も初期費用約54万円のほかは、月数千円程度の維持費で運用可能だ。

訪問看護などの経験を生かし、導入の旗振り役となった常盤平にある「どうたれ内科診療所」の堂垂伸治医師は、「あんしん電話は、互いに無理なく、確実に見守りができるシステム。他の自治体や医院でもぜひ導入を検討してほしい」と語る。

医療と地域と技術が連携し、孤独死減少をめざす新システムに、全国から注目が集まっている。

問い合わせは、☎047(394)0600 同診療所まで。



「あんしん電話」導入の旗振り役として活動中の堂垂伸治医師